

# まちの価値向上を目指し 地域資産を活かし・つなぐ

YouTubeでの  
オンライン  
配信あり!

主催：日本都市計画学会関西支部 企画委員会、関西まちづくり賞委員会  
共催：関西大学 環境都市工学部

人口減少や空き家対策が社会課題となっている中、個別の空き家再生や不動産事業を超えて、まち全体の価値を向上する「エリアリノベーション」の取り組みがあります。今回は、講師として丸順不動産の小山代表をお招きし、「上質な下町」を目指し、地域の暮らし目線でまちの価値向上を実践されている阿倍野・昭和町の事例をお話しいただきます。また、2019年度関西まちづくり賞受賞団体にも事例をご紹介いただき、パネルディスカッションを通してまちの価値向上を目指して人・景観・建築等の地域資産を活かし・つなぐことについて、議論を深めます。

日時：令和2年12月5日(土) 14:30～17:00  
会場：関西大学梅田キャンパス 4階多目的室  
定員：会場10名(先着順) ※オンラインは人数制限なし  
参加費：無料

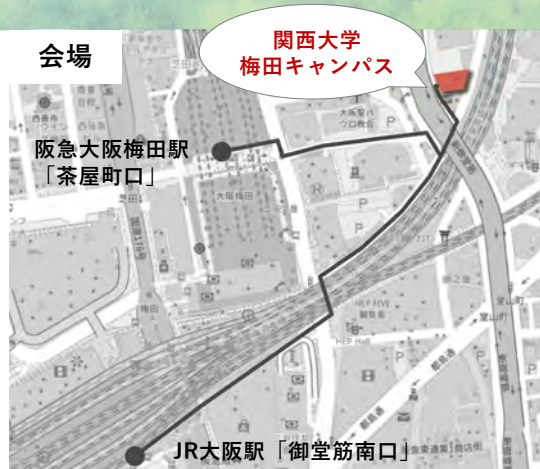
申込方法：日本都市計画学会関西支部HPにある申込フォーム

[http://www.cpij-kansai.jp/cmt\\_plan/top/plan.html](http://www.cpij-kansai.jp/cmt_plan/top/plan.html) にて

①氏名、②所属、③連絡先(メールアドレス)

④参加形態(オンライン or 会場)

を入力の上、**11月27日(金)まで**にお申し込みください。



## 次第：

### 1. 講演会 (14:35～)



#### 小山隆輝 氏

丸順不動産株式会社  
代表取締役



寺西家阿倍野長屋(長屋で全国初の登録有形文化財)の再生等空き家リノベーション、「よき商い」をつくり育て守る「buy-local」活動等を展開。今回は、コロナを踏まえた地域の状況や大阪メトロと連携した沿線地域活性化等、今後の展望もお話し頂きます。



### 2. 2019年度関西まちづくり賞受賞式・事例発表 (15:40～)

成逸学区「顔の見える安心感のある、こちよいまち」を目指して(京都市上京区)

近江八景と東海道でつながる  
天津市と草津市の広域景観連携  
(滋賀県天津市、草津市)

大阪の下町、古民家利活用  
から発展したまちづくり事例  
(大阪市城東区)

### 3. パネルディスカッション (16:30～17:00)

「地域の問題を地域で解き・実践する様々な試み－2019年度関西まちづくり賞－」

コーディネーター：牧 紀男 氏 (日本都市計画学会関西支部 関西まちづくり賞委員長)

パネラー：小山 隆輝 氏 (丸順不動産 代表取締役)

石本 幸良 氏 (京・まち・ねっと)

谷 祐治 氏 (天津市議会議員・公益社団法人 滋賀県建築士会 天津市地区委員会 総務部会長)

和田 欣也 氏 (一般社団法人がもよんにぎわいプロジェクト 代表理事)

## 【ご参考】2019年度関西まちづくり賞受賞案件概要

関西まちづくり賞は1998年に創設され、まちづくり及び都市計画の進歩・発展に著しい貢献をした優れた成果又は実績を表彰することにより、これを称えるとともに支部会員の意識の高揚を図ることを目的としており、先進性・継続性・協働性及び汎用性の視点から毎年3件を上限として選定・表彰を行っています。

### 『成逸学区「顔の見える安心感のある、ここちよいまち」を目指して』

受賞者：成逸住民福祉協議会、京都市立北総合支援学校、京・まち・ねっと 石本幸良

京都市上京区の元小学校区である「成逸学区」で昭和48年から様々な活動に取り組んでいる。防災マップや避難所運営マニュアルは、いずれも住民の発意で作成と改訂を行っており、とりわけ避難所運営マニュアルは、東日本大震災や熊本地震など実際の災害に当てはめて検証し、不都合な点の改定を重ねてきている。また、平成19年からは、町内会加入世帯の減少対策として、新築マンションの工事着工前に町内会加入について協定を結ぶ「せいいつ方式」に取り組み加入を促進させている。さらに、平成16年に開校京都市立北総合支援学校との連携も特筆される。学校の一部に成逸住協の活動拠した点である「成逸会館」が併設されており、学校は住民の交流拠点のみならず、地域の防災、避難拠点機能も担う。行政主導によらない地元主体のまちづくりのモデルである。



成逸学区総合防災訓練  
写真提供：成逸住民福祉協議会

### 『近江八景と東海道でつながる大津市と草津市の広域景観連携』

受賞者：びわこ大津草津景観推進協議会、公益社団法人滋賀県建築士会（同大津地区委員会・湖南地区委員会）、谷 祐治

文化的歴史的に密接に繋がりがあ一方で、行政的な連携はほとんどなかった大津市と草津市の2つの団体による一つの景観協議会（「びわこ東海道景観協議会」（令和1年））の設立を中心とした取り組みである。行政のみならず、両市議会、滋賀県建築士会の両支部が連携し一体となった展開が特筆される。「大津草津景観連絡会議」（平成22年）、「びわこ大津草津景観推進協議会」（平成25年）の設置、両市長による「大津草津景観宣言」（同年）の調印と両市による連携を深めた。一方、両市議会は、「推進協議会の広域計画策定協議会への移行に関する議決」（平成27年）を経て、「連携推進会議」（平成29年）を設置して連携を強化した。取り組み内容は①琵琶湖対岸眺望景観②旧東海道看板③幹線道路屋外広告物の3点に絞り込み、市民の参加を得ながら進めている。予算や実行力のある政策基盤の構築は、大いに参考になる。



旧東海道統一案内看板  
（写真提供：びわこ大津草津景観推進協議会）

### 『大阪の下町、古民家利活用から発展したまちづくり事例』

受賞者：一般社団法人がもよんにぎわいプロジェクト

下町の古い町並みを残す密集市街地である大阪市城東区蒲生四丁目駅周辺（がもよん）における、古民家のリノベーションを核としたまちづくりである。古民家を飲食店に再生して地域の賑わいにつなげている。2008年に築100年を超える米蔵をイタリアンレストランに再生したことを皮切りに、現在では31件以上もの古民家が再生された。再生の際には必ず耐震改修を行っている。これは阪神大震災を経験した申請者の強い意志による。再生された飲食店は、申請者自らが改築設計するのみならず、テナントリーシング、経営支援などをパッケージにしており、これまで経営の問題で撤退した店はなく、継続性、先進性、汎用性において優れている。



米蔵を再生したイタリアンレストラン  
（写真提供：がもよんにぎわいプロジェクト）